

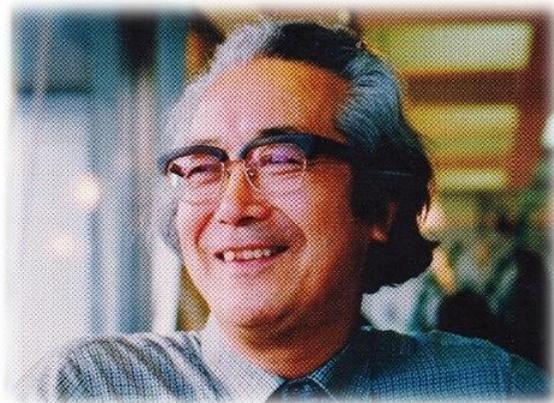
よしの ひろし 吉野 弘

詩人

1926(大正 15 年)～2014(平成 26 年) 87 歳没

1. 経歴・狭山市とのかかわり

山形県酒田市に生まれ、同市立酒田商業学校を卒業後、帝国石油に入社、その頃、高村光太郎の『道程』を読んで感銘をうける。昭和 19 年徴兵検査には合格するが、入隊 5 日前に終戦を迎えた。戦後は労働運動に参加、昭和 24 年に過労で倒れ、肺結核のため 3 年間療養した。入院中、詩人・富岡啓二氏を知り交友、詩にめざめた。詩誌「詩学」「櫛」で活躍し名声を高める。石油開発資源への移籍を機に東京都板橋区に転居、昭和 37 年会社を退社しコピーライターに転職、その後は文筆を専業とした。



昭和 47 年秋、狭山市北入曽に移る。平成 19 年、静岡県へ転居するまでの 35 年間、狭山市民だった。その頃発刊された詩集『北入曽』は狭山市の文芸資産である。今は狭山市入間川の慈眼寺に眠る。

2. 主な業績

① 数多くの詩集や詩画集の出版

代表作には結婚披露宴で良く引用される【祝婚歌】をはじめ、国語の教科書にも掲載された【夕焼け】、【I was born】、【虹の足】等がある。詩画集『10ワットの太陽』等

② 合唱組曲、社歌、校歌などの作詞

代表作に「心の四季」、「風光歌」などの合唱組曲や母校酒田市立琢成小学校、狭山市立入間野中学校、埼玉県立所沢中央高校等の校歌も数多く作詞

③ 新聞詩壇、読者文芸詩部門、高一・高二コース投稿詩等の選者を担当、「文芸さやま」の編集委員を務めたり、入間公民館での文学講座も務めた。

④ 随筆や評論でも多くの出版物があり、書・画にも造詣が深かった。

3. 特筆

① 戦争で、労働争議で、結核でも三度の試練を乗り越えたことにより、『何としても生きなくてはならない』という強い決意が詩の制作意欲に繋がった。

② 何気ない日常や光景の中に人間の弱さや優しさを平易な言葉で人間の温かみを描いた抒情詩人である。

③ 『感傷旅行』で読売文学賞・『自然渋滞』で詩歌文学館賞受賞